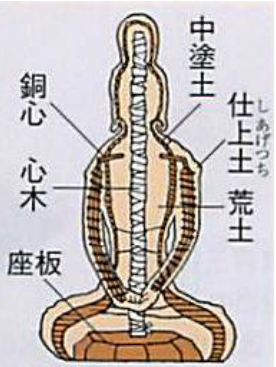



日本史(18) 「天平文化③ 美術(彫刻・絵画・工芸) 編」



■彫刻…表情豊かで調和のとれた仏像が多く、以前からの金銅像や木像の他に新たな技法が発達。

<p>1. 塑像</p>  <p>木を芯として粘土を塗り固めた。</p>	<p>2. 乾漆像</p>  <p>原型の上に麻布を幾重にも漆で塗り固め、後で原型を抜き取る。</p>
---	---

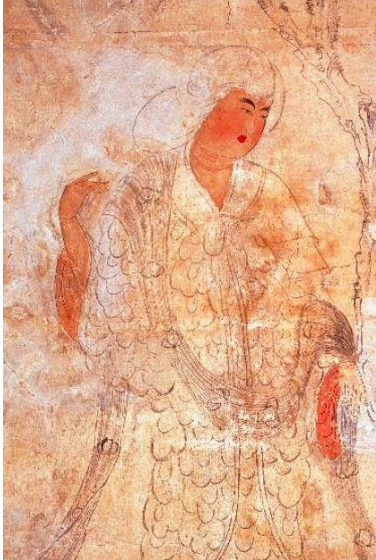

<東大寺法華堂>

<p>3. 不空罽索観音像</p>  <p>乾漆像</p>	<p>4. 日光・月光菩薩</p>  <p>塑像</p>	<p>5. 執金剛神像</p> 
---	---	--

<興福寺>






<p>8. 釈迦十大弟子像(富楼那仏)</p> 	<p>9. 八部衆像(阿修羅像)</p> 
<p>10. 乾漆像</p>	

■絵画…唐の影響を受けた華麗で豊満な表現。

11. 鳥毛立女屏風 樹下美人図	12. 薬師寺吉祥天像
	

13. 過去現在絵因果経


■工芸…[14. 正倉院宝物]が有名。聖武太上天皇の死後、光明皇后が遺愛の品々を東大寺に寄進した。

15. 漆胡瓶 	16. 螺鈿紫檀五弦琵琶 	17. 瑠璃碗 
18. 百万塔 	19. 陀羅尼經 	
[20. 称徳天皇](孝謙太上天皇)が恵美押勝の乱の戦没者を慰霊するために作らせた。		